

あの子どもは、どうしているのか？

今回も、奨学期間を修了した教育里子たちに、学窓を出てから歩んだ道を振りかえって、手紙を書くように頼みました。

卒業してからの年月が経っていても、中学⇒高校⇒大学と支援して下さった教育里親の皆様への想いを、お汲み取り戴けたらと想います。

今年から、2023 年を目標に、奨学修了した『教育里子卒業者会』の中心メンバーを 1000 名育成して、彼らによる奨学支援を進めていくことにしています。

ひとりの卒業者で、1 年に 600,000 ルピアを拠出し、5 名ひと組で年間 3,000,000 ルピアで一人の教育里子を支援します。2020 年の目標は、50 名の支援を行うことです。

『2023 年の時点で、200 名の教育里子への支援を、1000 名の卒業者メンバーで支援』を目指しています。そこから、どれくらいの広がりとなるかは、彼ら次第です。

今回の寄稿をしてきた奨学修了者会メンバーは、一昨年と昨年に寄稿して下さったメンバーとともに、すでにこの計画の中核として活動してくれています。

私たち、日本の教育里親は、彼らを見守り、応援しながら、よい友情をつくっていきましょう。

Septina Argarini (ボゴール No.3636) 教育里親：竹内 一光 さん (埼玉)

Septina Argarini と申します。34 歳です。27 歳までチアンジュールに住んでいました。その当時、C.P.I. の教育里子でした。穏健で保守的な教師だった両親は、私が『優』をとれるように勉強させてくれました。両親は、私にしてあげられることは、彼らが理解する『教育』を授けることだけだと考えていたようです。他の親のように『何か素敵なもの』をあげるという考えはなかったようでした。ですから私は、所謂『様子の良い装いの学生』ではなかったです。つまり、「素敵な物、例えばブランド名のあるバッグや流行の靴あるいは高い時計を持つ」といったことよりも、両親のように立派な人になりたいと思っていたのです。

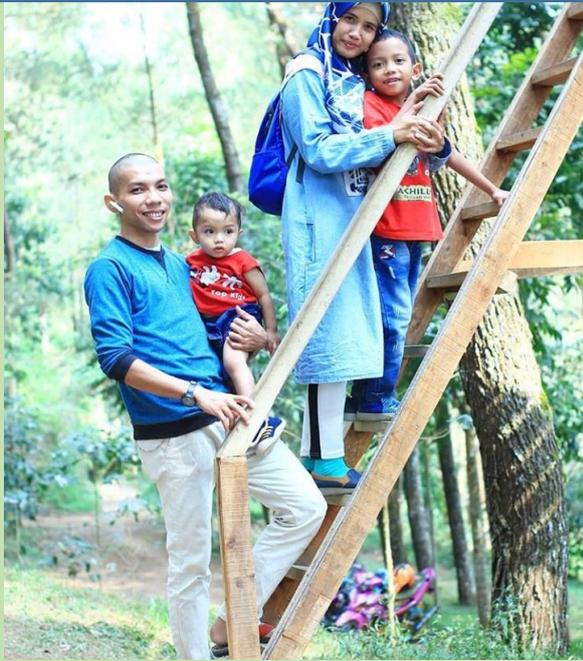


中学生のときに C.P.I.と PPKIJ のチアンジュールの地域センターから奨学生に選ばれました。それは、とてもスリリングなことでした。奨学金が戴けるということだけではなく、他の奨学生—中学や高校の素晴らしい成績の学生たちと知り合えるようになったのは素晴らしいことでした。勉強の仕方、知識という面で皆さん飛び抜けていました。ものすごく優秀で、もうビックリしましたし、気持ちが広がる心地でした。私たちは、なんでも共有することができましたし、いろいろなことに挑戦しました。競争することも大事かもしれませんが、協働する＝一緒に何かを達成することも大事だということを知りました。

日本の教育里親さんに支援して戴いていたこともあって、日本語の学習もしました。日本の方が私の勉強を助けて下さるということは、想像を超えていました。日本の教育里親だった『TAKEUCHI』さんには、いくら感謝しても足りないですし、中学・高校を通じて、両親になかなか頼みにくかった参考書や新しいバッグや靴を買うこともできたことをお知らせしたいと思います。

2003 年に高校を終えるとき、奨学金のお陰で『卒業試験費用』も払うことができ、上級学校に行けることになりましたが、両親も私自身もチアンジュールの大学を目標にしました。この地域の、イスラムの信仰が深く穏健で静かな環境が好きです。ほとんどの友人は、他の地域の大学や専門学校に行きましたが、私は、両親の意見を聞いて、チアンジュールの上級学校にこだわり、私立の大学に行きました。そのため、C.P.I.奨学制度の規定により奨学金は打ち切りとなりました。でも、PPKIJ との関係が切れることはなく、今も『教育里子卒業者会』に所属しています。2007 年に Putra Indonesia University の社会学に進んだ後、教師資格をとるために他の大学に行きました。2008 年に資格をとることができ、チアンジュールの高校で英語の教師となって 10 年ほど勤めています。いま私は結婚してまして、息子ひとりと娘（まだ生まれて 6 ヶ月ですが）を授かって幸せ一杯です。私の小さい頃からの夢でした教師になるという人生と家庭の幸せを下さった『C.P.I.教育里親制度』という贈り物には感謝しますとともに、この理念が途絶えることのないよう、精一杯の協力をしていきたいと考えています。

Asri Rachmawati (ブミアユ No.4181) 教育里親：稲葉 勇美子 さん (栃木)



ASRI RACHMAWATI

1989年12月3日中部ジャワ・ブレベス生れ。
Bumiayu Brebes, Central Java の奨学生として、
2005年に中学3年生で開始。2010年、気象学/地球物理学アカデミー (BMKG) 卒業。

Work :

BMKG Indonesia 勤務：
スパディオ気象学センター (2010 -2016)
ボゴール気候学センター (2016 -現在に至る)

Education :

気象学/地球物理学の勉学終了 (2010)
西ボルネオ Tanjungpura University 卒業 (2015)
ボゴール農業大学で大学院 (在学中)

私は2人の子ども *Almer and Mika* の母親です

Asri です。私は最近、家事効率をあげる勉強と、大学院での試験の準備をしまして、C.P.I.の小西さんから「卒業生レポートを書いて下さい」とのご連絡を受けた後、お返しが遅れ、すみませんでした。昨日は私の誕生日でしたので、一念発起して、C.P.I.-PPKIJ の教育里親に選ばれたあの日からのご支援と、今の私の幸せのことをお話します。

私は、2007年にジャカルタの気象学/地球物理学の幹部候補生になるまで、ずっと努力してきました。両親は、私と兄妹(まだ学校に行っていました)への教育の面倒をみてくれて大変でした。ですから、私は、中学生のとき、小学生への家庭教師をして学費を稼いでいました。毎月400,000ルピアを稼いで、卒業レポートを作成するためにコンピューターとプリンターを買ったことを覚えています。

ところが、私が中学3年生のとき、今では無料になりましたが、当時は卒業試験を受けるには、とてつもない受験費用を払わなければなりませんでした。その試験に合格しないと、中学の卒業証書がもらえないのです。両親は、私と兄妹の教育費を賄うことで大変でしたから、卒業試験費用さの事を考えると頭が痛かったそうです。なんのために頑張ってきたのか、絶望的になりました。

そのようなときに、「中学3年生からの奨学金支給」をして下さる、C.P.I.の奨学制度があることを学校の校長先生から教えてもらいました。光が降ってくる気持ちでした。私は、PPKIJのブミアユ支部のセンター長MAGITさんと面談して、C.P.I.の教育里親さんからのご支援を戴くことになりました。

その機会を生かして、高校を出てからも、ジャカルタで一人暮らしをしてその後のキャリアをつかむことができたのです。

ところで、私は最近、JAMSTEC (Japan Agency For Marine-Earth Science and Technology) の調査官とお逢いし、もしかすると日本での仕事をする事になるかもしれません。是非、奨学生時代の教育里親さんにお会いできたらと思います。お元気でいて戴きたいと、神様にお祈りしています。

Ai Hikmawati (チアンジュール No. 2736) 柿島 敬さん (静岡)



こんにちは。私は Ai Hikmawati です。40 歳になりました。月日の経つのがこんなに早いとは…驚きです。

私は、1997 年まで、チアンジュールで C.P.I. の奨学金を戴いた、卒業生です。8 年生のときに「教育里子」として登録して戴いて、高校 3 年生まで奨学金を戴きました。

今でも覚えています、私をご支援くださったのは、林ひろこさんでした。実は、はじめのうち、林さんが男性か女性かわかりませんでした。ネットで、日本の方のお名前で「ひろ子」というのは女性だということが分かりました。彼女が 70 歳台の方で、日本のかなり有名な女優さんだということも見当がつかしました。でも、彼女はそのことを知らせて下さいませんでしたから、確かなことは分かりません。

私は、彼女にいつも手紙を送りましたが、お返事が戴けなかったからです。

それでも私は、C.P.I. と PPKIJ の進めている教育里子になっていることを誇りに思っていました。それというのも、多くの学生がいるなかで、そのポジションを戴けているということは、私の勉強にとって、大きなモチベーションになりましたから。ですから私は、科目の勉強だけでなく、課外活動にも頑張りました。

C.P.I. のリーダーの小西さんは、よくチアンジュールの施設に泊まり込んで、私たちと話してくれましたから、日本の文化、上手な組織づくりの仕方、里親一里子関係を通じての賢い学生と外国人との友情づくりの意味を学ぶことができ、兄妹のような関係ができて、とても自信のある人間になりました。

私が奨学金を戴いていた期間は、5 年間でした。高校を卒業するとき、中央政府からの連絡で、C.P.I. の奨学生が大学に入学したなら、大学を卒業するまで、政府奨学金をもらえるとのことでした。1998 年に、The Department of Physics of Yogyakarta State University に合格しました。しかし何故か、政府奨学金を戴くことができませんでした。でも、だからといって、くじけませんでした。私は、教育里子時代に受けた素晴らしい体験と、いろいろと行った活動の思い出が、何よりも私の「それから」を支えてくれましたし、「私のいま」をつくってくれたのですから。

そのことをモチベーションにして、私は、インドネシア共和国の教育コンテスト＝教師コンテスト・UNBK 問題作成担当者・社会変革企画コンテスト・東南アジア英会話教育コンテストに参加し、最後に Pakuan 大学の自然科学大学院に入ることができました。一年後、私はチアンジュールに戻り、教育文化省に教師としての登録を申請し、チパナスの中学校の自然科学教師として就職できました。いま私は、結婚し、息子をひとり授かっています。私自身が奨学生時代に体験したことを、教え子や私の息子に伝えたいと思います。私の希望は、彼らが、自分のモチベーションを持ち続け、あきらめず、自分の夢の実現にむかうことです。C.P.I. と PPKIJ が進めてきた活動は、単なる教育科目への奨学金を与えることではなかった。子どもたちの可能性を信じて、それを伸ばして実現できる道を示してくださったと思います。

私を励ましてくださった C.P.I. の小西会長様、PPKIJ の Martani 先生・Soedarsono 先生・UCI さん・K.H. ChoirulAnam お坊さん、Mr. Harno・Mr. SusilaDireja をはじめとするチアンジュールの PPKIJ 学校の皆様にお礼を申し上げます。有り難うございました。

こんにちは。私は、1993年9月3日生まれ26歳です。教育里親さんに捧げたいのは、「あなたがいてこそ私の成功です」という感謝と、これまで人に言えなかった、小さな頃からの生い立ちや、困難をくぐり抜けて得た成功の、分かち合いです。長くなりますが、お読み戴ければ幸いです。私の UMI FAZA ROKHMAH という名前は、両親から戴きました。FAZA というのは、インドネシア語で『勝利』という意味でして、両親が私の成功を願って付けたそうです。日本でも、お名前には親の願いが込められていると聞いたことがあります。ところが、私には、村長から戴いた ATI KARIMAH という名前と、イスラムモスクから戴いた MUHAMMAD RIZALDI BAHTIYAR という名前が、親から戴いた名前とは別にあります。これは、日本にはないことだと思いますが、インドネシアでは、出身を明らかにするためのものだとご理解下さい。

私の生まれは、ブミアユ県のひとつの郡 (Kecamatan) の中では一番大きな村の、PRUWATAN という小さな村 (DESA) でした。

※インドネシアでは、州⇒市 (KOTA) または県 (KABUPATEN) ⇒郡 (KECAMATAN) ⇒町 (KELURAHAN) または村 (DESA) ⇒地域 (RW/RT) ⇒路 (Blok) ⇒番地 (No...) との順で住所を表します。



ジャワの伝統的な服装です。



大学卒業のときの家族写真です。

私の父は KHOIRIN 母は SITI NURAENI という名前です。父は建築の仕事をしていました。母は自分の小規模商売をする傍ら、近所の手伝いをしていました。貧しい家庭の毎日の生活は、生きていくのが大変でしたが、神様が私に、『生きるということの厳しさ』を叩き込んでくれたのだと思います。そういう中で、私は学校で勉強したいと意欲をもつようになりました。小学校に入る前、子どもながらに働かなければならず、一方でなんとか勉強もしたいと思って、そのときの努力と苦労は大変でしたが、今の私から振り返りますと甘美な思い出となっているのが、不思議です。



ロシア国 Juravli 大学余暇調査センター



第 23 回臨床栄養学に出席

インドネシアでは、公立小学校は学費が安いので、ほとんどの子どもが学校に行きます。私も、PRUWATAN の公立小学校に入りました。いつもクラスで一番をとり、国の科学オリンピック・小学生の部で優勝しました。それで校長先生の薦めで公立中学校に進学しました。そこでも私はずっとクラスで一番を通し、インドネシア共和国物理学オリンピックにも参加することができました。公立の、中学校までの学費はさほど高くはなく、参考書とか無くても勉強に困ることもありませんでしたので、教材費もさほど必要としませんでした。

しかし、困ったことがありました。それは、中学校卒業のときに受験しなければならない卒業試験でした。ものすごく高額な卒業試験費用で、とても高校に入学できないと悲しい思いでした。そのとき、中学の校長先生が、Islamic High School に推薦してくださり、勉強を続けるために C.P.I.-PPKIJ の奨学制度を紹介して下さいました。その奨学金のお陰で、中学校卒業試験を首席で突破することができ、高校に入学できたのです。C.P.I.の教育里親さん『Tabara Yoshitaka』さんには、長く助けて戴きました。

本当に、『Tabara』さんには、お逢いして、感謝の気持ちを伝えたいです。C.P.I.の教育里子卒業者の多くが、同じ気持ちをもっていると思います。

私が高校生とき、インドネシア共和国化学オリンピック高校生の部で優勝しました。それはとても興奮するできごとでした。そして、もっと勤勉に勉強しようと決心しました。高校を卒業するときには、自然科学の最優秀卒業生の席につくことができ、大学で医学関係の化学分野に進みたいと考えました。そのような路へ進むことは、子どもの頃からの夢でしたが、大学でのその分野の費用は高額ですから、とてもチャンスはありませんでした。もう、悲観にくれて、駄目だと思い、仕方がないから紡績会社に勤めようと思いました。仕事をするとは、勉強を続ける気合いを奪ってしまうのでは、一日8時間も働いたら本を読む時間や課題に取り組む気持ちもなくなるのでは、と気落ちしました。

でも、よく考えてみると、一所懸命に働いて給与を貯めて、そのお金を使って、自分自身の力で、大学への入学金と授業料をつくることもできるかもしれないと、考え方を変えました。神様はきっと、小さい子どもときに叩き込まれた『生きるということの厳しさ』を思い出せと言われているのだと、修行と思ってやることにしました。

そして2012年に、ついに中部ジャワ・プルウオクルトの Jenderal Soedirman University の栄養学課程に合格し、教育省から月に600,000ルピアの奨学金を戴けることになりました。1年間の厳しい『修行』の結果ですから、力の限り勉強したので、Grade-point Average (GPA)で高い評価を戴き、

講師の助手を務めることもできて、学費も助かりました。また、勉学の傍ら、ILMAGI, HMPSIG, DLM といった大学組織に参加しました。そこで得た多くの体験や技術は、私にとってとても貴重なもので、医学&健康科学の分野での卒業生総代の役割を得ることにもなったのです。大学を卒業してから、インドネシア技術推進官庁である BKKBN の中部ジャワ事務所に4ヶ月勤めました。4月に大学の先生から連絡があり、卒業生対象の PMDSU という奨学金に推薦できるとのことでした。4年間の勉学費用と必要な調査費の全てを負担して下さる夢のような奨学金で、大学院から博士課程へ進むことを早めるものでもありました。通常5年間かかるコースを4年間で通過できるのです。インドネシア共和国調査&高等教育省が運営する奨学金で、私はすぐに申請を致しました。2ヶ月後、恩師である Prof. Dr. Ahmad Sulaeman, MS. の強い推薦で、私はその奨学金を受けて勉学を続けることになりました。そこから、教授について行って、いまの地位と仕事に就くことになったのです。



恩師・Prof. Ahmad Sulaeman 教授は、ポゴール農業大学 (IPB) の先生で、栄養学の多くの調査を抱えておられました。私は彼の指導を受けて、妊婦と子どもたちのための栄養学を習得し、妊娠期に必要な栄養をとるための食料開発調査の管理を行っています。そうした食料は、インドネシア人のスタッフによって、バリ島の家畜牛の骨髄から作られており、2020年には、私は調査に入ることになっています。とても意義のある仕事で、神様にプロジェクトの成功を祈っています。その成功のためにも、私は今、日本の『栄養&健康科学』分野の方々との協働を模索しています。きっとその願いも叶えられると考えています。

まだまだお知らせしたいこと、提案したいこともあります。紙数もつきました。最後にもう一度、大切な中高生時代を支えて下さった C.P.I. の教育里親さんと、運営の皆様には、深くお礼を申しあげて、この手記を終えることに致します。

お読み戴き、有り難うございました。



ポゴール農業大学の博士課程の友人たち



動物の育成研究所の仲間たちと談笑

